

# 夏季に異例のインフルエンザ注意報発

2005年、県内のインフルエンザは、1月下旬から患者が増加しはじめ、3月中旬にピークとなり、その後終息に向かい4月下旬には流行は落ち着いたかに思われました。しかし、6月中旬頃から再び患者が増加し、7月上旬には定点医療機関あたりの患者数が注意報発令基準の10人を超えたため、インフルエンザ注意報が発令されました(図1)。注意報は、7月下旬まで続き、その後患者は減少しました。この夏季の流行で、県内の小中高7校11クラスが学級閉鎖となりました。この時期に注意報が出た例は、全国的にもこれまでにありません。

患者から採取された検体を調べたところ、流行したインフルエンザウイルスの型は、冬季に流行したウイルスと同型のA香港型ということがわかりました。夏季における流行の要因については、まだよくわかっておりませんが、今回のように流行のピークが2峰性を示した点は、タイなど東南アジアの国々の流行パターンと類似しています。このことから本県のインフル

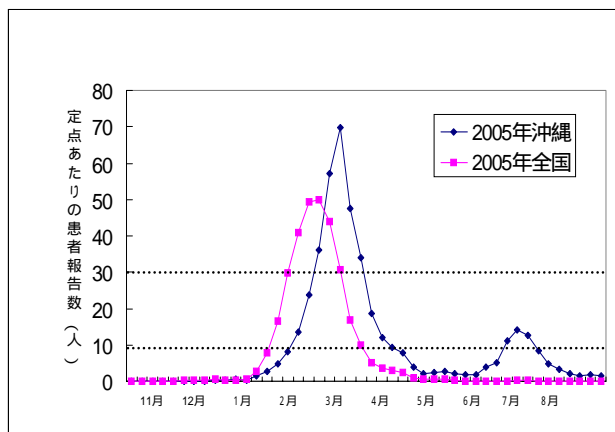


図1. インフルエンザ流行状況

注意報 発令基準：定点あたりの患者報告数が 10 人を超えた場合

警 報 発令基準：定点あたりの患者報告数が 30 人を超えた場合

エンザ流行形態が東南アジア型に移行することも考えられます。したがって、今後夏場の流行に注目し、監視を強化していく必要があると思われる。

【微生物室】

## JICA理事長表彰と「衛生環境分析者IIコース」研修の修了

当研究所は、1983年から毎年JICA研修生を受け入れており、諸外国における衛生分野の諸課題の解決に向けて基礎的な技術の研修を行っています。これまでの研修実施回数は、通算23回、研修生は、33カ国、120名になります。このように、長年、研修員を受け入れ、人材育成に貢献しているとの理由から、昨年10月に、緒方JICA理事長から表彰されました(写真1)。



写真1. 緒方JICA理事長より表彰状を受ける平良所長



写真2. 左からケニアのキャサリンさん、オセアニックさん、マダガスカルのカリステインさん、インドネシアのアセップさん、平良所長

平成17年度JICA集団研修「衛生環境分析技術者 コース」が昨年7月25日～10月23日の約3ヶ月間、実施されました。今回は、コースの内容を一新してから3回目の実施で、インドネシア1名(感染症)、ケニア2名(食品化学、大気汚染)、マダガスカル1名(水質汚濁)の計4名の研修員がそれぞれ4つのサブコースにわかれて、技術研修を修了しました(写真2)。

【企画情報室】

発行 沖縄県衛生環境研究所  
〒901-1202  
南城市大里字大里2085  
TEL(098)945-0781  
FAX(098)945-9366